

「7日間ブックカバーチャレンジ」余録

(原野 昇の Facebook より、一部加筆修正)

【2020. 5. 10】

昨日 (4/9) の「7日間ブックカバーチャレンジ」第5日で紹介した『シュヴァールの理想宮』についての、広島大学マスターズ仲間・小方 厚さん (仲間は「さん」と呼ばせていただきます) のコメントにあるように、小方さんが2019. 4. 25のブログで同書を紹介されています。

昨日書き落とししましたが、そのブログで紹介されているように、「シュヴァールの理想宮」の動画もあります。また、画像もたくさんあります。マーゲイトの貝殻洞窟についても同様です。

小方 厚さんのブログ

<https://blog.goo.ne.jp/ablerail1007/e/be6527870408c8da45b5700818f325bb?fbclid=IwAR02DG4jP9kc3afi70pJkpCcOMDPS1EP1ymu0cMEv13Jsm55BoDvdQiYstc>

【2020. 5. 13】

「7日間ブックカバーチャレンジ」補足

上記チャレンジの初日 (5/5) にバトンを渡した鈴木 覺さんが、今日 (5/13) 第7日目の投稿をされました。

https://www.facebook.com/satoru.suzuki.902?fref=profile_friend_list&hc_location=friends_tab

そこで紹介されている、山田風太郎『人間臨終図巻』に、原野が初日に紹介した、パリの留学生宿舎・日本館を建てた薩摩治郎八氏の最期の様子が書かれていると言って、該当ページの写真を送ってきてくれました。

パリ留学時代の1969年に来巴された治郎八氏に同伴されていた利子夫人にも一緒にお会いしたが、財産をすっかり使い果たして50歳で帰国した無一文の治郎八氏の後半生を支え、「バロン・サツマの長く幸福な“余生”」(『芸術新潮』49、1998年12月、特集 パトロン道を究めた男 薩摩治郎八のせ・し・ぼん人生)とも言われるほど、最期(1976年、75歳で永眠)まで寄り添われた利子夫人のことを思い出しました。

(なお、上記原野の初日の投稿中に、「治郎八氏に2度お会いしたことがある」と書いているのは、治郎八氏がパリに来られた際、1度目は日本館で(9/24)、2度目は氏が投宿しておられたホテルで(9/25)、という意味であり、留学中(1967～1970年)に治郎八氏がパリに来られたのは1度のみである。)

(山田風太郎『人間臨終図巻』の中(p. 111-112)で「薩摩次郎八」となっているのは「薩摩治郎八」の誤植である。)

【2020. 5. 14】

「7日間ブックカバーチャレンジ」の4日目(5/8)にバトンを渡した佐々木真理さんの6日目(5/14)の投稿:

https://www.facebook.com/mari.pachico?_tn_=%2CdC-R-R&eid=ARAFjKKnaaRBjrEDYzkvTlxovDj3nhcxOqCwOGLOutrbSIrBTJQLJNrHbR3SkEm15oZ7sBw4bcWjehsM&hc_ref=ARRFLoah6ScHhd3d00Dh7mZaS2uRRU_k0cIsw29ZCBE5I1-On3N_rQQ-gknrZd_U7M&fref=nf

を読んで、広島女学院大学時代の同僚・N先生のことを思い出しました。(拙稿「N

先生」の末尾を参照)

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/nharano/N%20Sensei.pdf>

【2020.5.18】

「7日間ブックカバーチャレンジ」でバトンをお渡しした一人・浜本雅之さんが、第5日(2020.5.18)に、吉村昭『長英逃亡』(毎日新聞社、1984)を紹介しております。

この本の中にも出てきますが、逃亡中の長英は一時期、広島浅野藩の薬草園「日渉園」(現在は広島大学の所管)内にあった「神農堂」に匿われていました。

「日渉園」については、原田康夫・元広島大学学長が「広大フォーラム」(2006.6.1発行)に書いておられます。

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/forum/32-1/f4.html>

そのほか、下のようなページも見つかりました。

https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000252008